

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月15日

【評価実施概要】

事業所番号	2371500766		
法人名	株式会社アイ・ユースネット		
事業所名	グループホーム とまり木名東		
所在地	名古屋市名東区猪子石三丁目113番地 ワークステーションビル1階 (電話)052-779-8778		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成19年9月10日	評価確定日	平成19年10月10日

【情報提供票より】(平成19年8月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)15年1月15日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9人
職員数	13人 常勤 3人, 非常勤 10人, 常勤換算 6.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	4階建ての 1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,400円	その他の経費(月額)	22,050円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	231円	昼食	399円
	夕食	399円	おやつ	円
	または1日当たり	1,029円		

(4) 利用者の概要(平成19年8月22日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	0名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 75.5歳	最低	64歳	最高	82歳
協力医療機関名	東名クリニック				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは住宅地にあるビルの1・2階で、玄関前のアーチに季節の草花を飾ったり居間のテーブルの位置を工夫するなど、限られた空間を有効に活用し明るく開放的な環境づくりをしている。開設後4年半が過ぎて次第に地域に根付いてきており、近くの人が犬の散歩の途中に立ち寄りたり、以前の入居者が家族と一緒に遊びに来たりしている。職員は入居者一人ひとりを大切に心を通わせるケアを心がけており、穏やかで明るい態度が入居者の安心、落ち着きにつながっている。家族アンケートからも職員を信頼している様子が伺える。外出支援として毎月1度行っているバス旅行も好評である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 改善項目となった入浴では、希望があればいつでも入浴可能とし、浴室前ののれんに「いつでも入れます」と書いて入居者に説明している。市町村との関わりでは市の担当課に運営上での質問をしたり、区の担当者を月1度訪問し報告、情報交換をしている。研修では外部研修に積極的に参加し、研修資料を活用して内部で勉強会をしている。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 代表が全職員に対し自己評価の目的を具体的に説明し、職員は時間をかけて全員が取り組んだ。職員からは、日頃のケアを確認したり見直すきっかけになった、難しかったが勉強になったなどの声が聞かれた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6) 前回の外部評価の結果および改善の取組みについて報告を行い、入浴については家族の意見も聞いてサービスの向上につなげている。毎回資料や写真を用意し、行事やホームの様子を報告して現状を把握してもらっている。また研修会の資料を渡して認知症に関する理解を深めてもらい、さらに地域で活用してもらっている。質問等多くあり意見交換も活発に行っている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 契約時に意見、苦情について説明し、面会時や文書で意見をいつでも出してくださいと伝えている。家族と職員は気軽に話し合える関係を築いており、面会時に意見要望を聞いている。運営推進会議でも意見を出すことができる。意見、苦情等があった場合は、管理者に報告し職員間で話し合っ対応策を取ることとしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会、町内会に加入しており、盆踊りや敬老会、学区の運動会に出かけている。散歩の際には公園で地域の人と話す機会があり、犬の散歩の時にホームに立ち寄ってくれる人もいて自然な形で交流している。以前入居していた利用者が家族と一緒に遊びに来ることもあり、その際には職員は家族の話の聞いたり相談に乗って、家庭での介護をサポートする役割も果たしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく生活していくことへの支援を念頭において、経営理念で地域に愛されるホームを運営としている。また、支援理念として地域社会への貢献をあげ地域とのかかわりを大切にしていこう姿勢を示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	代表は職員の採用時に理念について説明し職員への浸透を図っている。日々の業務の中では常に意識するよう名札の裏に理念を入れたり、ミーティングやカンファレンスの際にも話題としており、日々のケアに理念が反映されるよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、町内会に加入し、盆踊りや学区の運動会に出かけている。散歩の際には公園で地域の人と話す機会があり、犬の散歩の時にホームに立ち寄ってくれる人もいて、自然な形で交流している。以前の入居していた利用者が家族と共に遊びに来ることもあり、その際には家族から介護の相談など聞いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果については職員間で話し合い、要改善となった3項目について改善に取り組んだ。今回の評価については代表が職員に目的等説明し、自己評価には全員で取り組んでいる。職員からは日頃のケアを確認したり見直すことができたとの声が聞かれた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>自治会長、民生委員、訪問看護ステーション、家族をメンバーとしており、2カ月に1度開催し、前回の外部評価の結果および改善の取り組みについて報告を行った。毎回資料や写真を用いて行事やホームの様子を報告し、質問や意見を出してもらいサービスの向上につなげている。資料を渡して認知症に関する理解を深めてもらい地域で活用してもらっている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の担当課に運営上での質問をしたり、主には区の担当者を月に1度訪問し報告や情報交換を行っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月手紙による行事報告の他に、一人ひとりの行事や日々の様子を写真に撮り郵送している。家族とは話しやすい関係を築いており、面会時にも日々の様子を伝えている。変化や問題が起きたときには電話連絡をしている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時や文書でいつでも意見等出してくださいと伝え、出しやすい環境を作っており、ホーム入り口にはアンケートボックスを置いている。運営推進会議でも意見を聞いている。意見等あった場合は管理者に報告、職員間で話し合っ て対応策を取ることにしている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>退職者が少ないためほぼ馴染みの職員での対応ができてい る。新しい職員が入ったときはきちんと紹介し、最初はベテランの職員がマンツーマンについて具体的に指導している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表は認知症ケアでは現場で働きながら学ぶことで経験し理解していくことが大切と考えている。積極的に外部研修に参加する機会を作り、参加した職員がミーティングで報告したり研修会の資料を活用して勉強会を行い、職員のレベルアップに活かしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知県グループホーム協議会に加入している。区の介護事業者連絡会に加入、講習会に出たり業者間で情報交換をしている。また名古屋市グループホーム協議会の研修会に参加し交流をしている。同じ法人のホームとは職員、入居者が訪問しあって交流している。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には職員が面談で自宅を訪問し、本人に何回か会って馴染んでもらったり、できるだけ本人にもホームに来てもらい、他の入居者と過ごしてもらうようにしている。入院先から入居する際にも何回か面談に行き、安心して入居できるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で言葉や食べ物、土地のことなど多くのことを教えてもらっている。助けてもらったり労わってもらったりと共に支えあう関係を築いている。職員の「人を大事にするとはどういうことか教えられる」との言葉からも共に生きるという姿勢が伺えた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日頃の会話の中で本人の希望を聞くほか、表情や行動から把握している。また、生活歴や家族の話を参考にして本人の思いを汲み取るように努めている。職員間で気づいたことなども話し合い本人本位に検討している。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族との話し合いを基に本人の状況に沿って希望を取り入れた計画を立てている。職員はカンファレンスで話し合う他、ファイルに意見を書き込むようにして全職員が計画に参加できるようにしている。訪問看護の看護師の意見も参考にしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>家族がホーム訪問時のさりげない会話の中で、職員は要望、意見を聞き取り、ケアカンファレンスの見直しに活かしている。3カ月に1回、評価、見直しを実施している。変化が生じた場合は、家族に相談し、実情に即した介護計画の見直しをしている。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携加算を受け訪問診療を実施している。医師、訪問看護との連携で、入院回避につなげ、入院された場合は、職員がお見舞いに出かけ、安心して頂いている。早期退院に向け情報交換も行なっている。通院介助を職員が行い、家族への負担軽減につなげている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関が毎週往診に来ている。かかりつけ医を希望される方には、家族に代わり通院介助を代行し、受診のお手伝いをしている。訪問歯科診療を実施し、医師より色々な情報を提供してもらい、口腔ケアにも力を入れている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>「重度化した場合における対応に係わる指針」を入居時に書面にて説明を行い、同意書を家族から頂いている。重度化対応に向けては、状態変化があるごとに家族との話し合いを重ね、相談しながら進めて行く。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報保護については入社時に説明を行い、契約書を交わしている。定期的に、全職員接遇チェック表を実施し、意識向上を図っている。日々、職員の言葉かけは、穏やかで丁寧に対応されている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な一日の流れはあるが、入居者の健康・精神状態に対応する介護・自立支援に向けての介護を実施している。職員は入所者のペースに合わせた個別ケアを取り入れ、一人ひとりが出来ることを把握し援助している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1日1,600kcalを基本に、入居者の好みのメニューを取り入れながらの食事作りを心がけている。職員が入居者と、一緒に準備・後片付けをしている。うまくできない時は、さりげなくカバーしている。食事は入居者、職員全員同じテーブルにつき、楽しく会話をしながらの介助を行なっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、週3回入浴して頂いているが、入居者の希望に添う時間帯に入浴を楽しんでいる。5月は「菖蒲湯」を楽しまれた。入浴以外に、感染予防や清潔保持のために、月2回足浴を取り入れている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備、花の水遣り、掃除、個々に合わせたレクリエーション活動など、アセスメント表に記載されている「好きな活動趣味」を参考に、できることに、力を発揮して頂いている。カラオケは入居者の楽しみの1つである。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、近くの公園に散歩に出かけている。体力の弱い方は車椅子での散歩になっている。喫茶店でお茶を楽しまれたり、近くのお店で外食やカラオケを楽しまれている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的には鍵はかけない。職員の見守り、目配りが行き届いているので、玄関はいつも開放してある。地域の方が犬の散歩途中に立ち寄って下さる事もある。入居者が外出したような時は、職員と一緒に付き添う援助を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導を受け、2カ月に1回全職員が意識強化を目的に、昼夜を想定した訓練を実施している。災害に備えた備蓄品は3日分用意してある。いざと言うときの為に、4階事務所の方に応援協力を依頼している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は1日1,000cc取るように支援。食事は1日1,600kcalを目安に残食量をチェック後、介護記録表に記入し情報を共有している。一人ひとりの体調に合わせて食事介助に配慮している。栄養バランスに関しては、定期的に保健所にチェックをお願いしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の壁には、四季に合わせた手作りの作品が掲示してある。月1回のバス旅行に出かけた時の入居者の生き生きとした写真が、壁一面に飾られ見る人の目を楽しませている。食卓、ソファの配置換えをしたりして、雰囲気作りに心がけている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具、写真、思い出の品で入居者の好みの居室となるように配慮している。職員からは、日頃の感謝の気持ちを伝える手作りの表彰状が、各部屋の壁に貼ってある。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。